

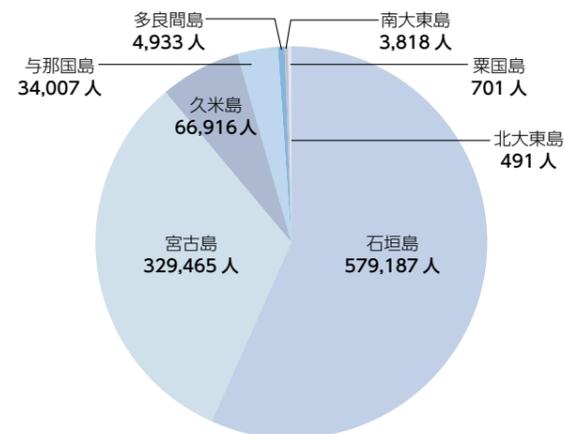
# 離島航空路線の今後

離島航空路線は、島民の日常生活に欠かせない生活路線となっているほか、観光客の移動手段としても利用されている。しかし、人口規模の小さい離島では、現状の輸送実績では航空事業としての採算がとれない状況となっている。このような状況が続くと路線維持が困難となり、島民の生活上必要な移動手段のみならず、観光産業等の地域振興にも影響を与えかねないため、路線維持のため措置を講じる必要がある。

## 航空路線を使った入域状況

沖縄県「離島関係資料」によると、2011年度に航空機を使って離島に入域した観光客数は、8島でのべ約102万人に上る。内訳は、約58万人を石垣島が占め、約33万人で宮古島が続いており、全体の9割以上を石垣島・宮古島が占めている状況である。

図表1：航空機による離島への入域観光客数（2011年度）



(出所) 沖縄県「離島関係資料」

また、2011年度の船舶による離島への入域観光客数は、27島でのべ約130万人に上る。県外からの入域観光客は、航空機で沖縄本島や石垣島や宮古島まで到達し、その後、船舶により各離島まで移動しているとみられる。航空路線及び船舶路線は、生活路線のみならず観光客の移動手段としても重要な存在といえるだろう。

図表2：沖縄本島から離島へのアクセス（空路）



図表3：離島へのアクセス（海路）



(出所) 沖縄観光情報WEBサイト おきなわ物語

## 離島航空路線の再開に向けた動き

船舶との競合や航空機の退役、不採算などの理由により廃止された航空路線について、離島住民の生活路線の確保や観光客の移動手段の確保などの観点から、路線の再開に向けた動きが進んでいる。

現在、多良間－石垣路線、波照間－石垣路線の2015年度下半期再開に向けた「石垣拠点航空路線開設検討協議会」が行われている。構成員は、沖縄県と竹富町、多良間村、第一航空の4者である。11月の協議会では、運航スケジュールや使用機材に関する検討の進捗や運賃の目安に関する事項などが報告された。本協議会では、運航条件や路線収支、コスト削減策および需要喚起策などの検討が行われ、2015年度中の路線再開を目指している。

波照間空港の滑走路は、800メートル滑走路であり、離発着できる航空機材には離陸距離の観点から制約があるが、就航予定のDHC-6型機（19人乗り）は800メートル滑走路に対応可能な機材である。

## 離島航空路線の確保に向けた動き

離島航空路線の確保の観点から沖縄県で実施されているのが「離島航空路に係る地域公共交通確保維持改善事業」だ。2014年度沖縄県離島航空

図表4：離島空港の滑走路延長

| 空港名 | 滑走路延長 (m) |
|-----|-----------|
| 伊江  | 1,500     |
| 粟国  | 800       |
| 慶良間 | 800       |
| 久米島 | 2,000     |
| 北大東 | 1,500     |
| 南大東 | 1,500     |
| 宮古  | 2,000     |
| 下地島 | 3,000     |
| 多良間 | 1,500     |
| 波照間 | 800       |
| 与那国 | 2,000     |

(出所) 沖縄県

図表6：離島住民の利用割合

| 対象路線   | 2012年度   |            |        | 2013年度   |            |        | うち離島住民の増減 (人) |
|--------|----------|------------|--------|----------|------------|--------|---------------|
|        | 利用者数 (人) | うち離島住民 (人) | 割合 (%) | 利用者数 (人) | うち離島住民 (人) | 割合 (%) |               |
| 那覇－粟国  | 9,059    | 4,197      | 46.3   | 11,275   | 5,123      | 45.4   | 926           |
| 那覇－与那国 | 8,986    | 2,236      | 24.9   | 13,271   | 2,528      | 19     | 292           |
| 宮古－多良間 | 32,683   | 16,802     | 51.4   | 33,777   | 17,269     | 51.1   | 467           |

(出所) 沖縄県

## 【KRIアウトLOOK：離島航空路線の今後】

路線確保維持計画（案）によれば、那覇－粟国路線（第一航空）、那覇－与那国路線（琉球エアコミューター）、宮古－多良間路線（同）を対象路線として事業が実施される。上記3路線については「当該離島と拠点となる地点間を結ぶ重要な路線であり、離島住民の日常生活に欠かせない生活路線となっているほか、観光客の移動手段としても利用されている。しかしながら、当該離島の人口規模は小さく、また、近年、人口が減少傾向にあり、現状の輸送実績では航空事業としての採算がとれない状況となっている。このような状況が続くと路線維持が困難となり、島民の生活上必要な移動手段のみならず、観光産業等の地域振興にも影響を与えかねない状況となるため、路線維持のための措置を講ずる必要がある。」として、事業の必要性が明確化されている。

## まとめ

航空路線を使って離島に入域した観光客数は102万人に上るなど、離島航空路線は生活路線のみならず、観光客の移動手段としても定着している。しかしながら、船舶との競合や航空機の退役、不採算などの理由で休止に追い込まれた航空路線も存在する。離島航空路線の再開や路線継続のためには、運航条件や路線収支、コスト削減策および需要喚起策などの検討に加え、公的支援が不可欠であろう。

(海邦総研地域経済調査部研究員／堀家盛司)

図表5：補助対象路線の旅客実績

| 対象路線   | 2013年度<br>旅客実績<br>(人) | 2012年度<br>旅客実績<br>(人) | 増減数<br>(人) | 増減率<br>(%) | 2013年度<br>座席<br>利用率 (%) |
|--------|-----------------------|-----------------------|------------|------------|-------------------------|
| 那覇－粟国  | 11,275                | 9,059                 | 2,216      | 24.5       | 65.0                    |
| 那覇－与那国 | 13,271                | 8,986                 | 4,285      | 47.7       | 47.2                    |
| 宮古－多良間 | 33,777                | 32,683                | 1,094      | 3.3        | 61.4                    |
| 合計     | 58,323                | 50,728                | 7,595      | 15.0       |                         |

(出所) 沖縄県